

事業の成果

[1] 子どもの権利条約の推進及び、子どもの諸活動に関する支援事業

●ふくいチャイルドライン事業

18才までの子どもがかける子ども専用電話「ふくいチャイルドライン」は16時～21時、毎週月曜日の福井ラインと第2第4水曜日の奥越ラインで2,410件の電話を受けました。受け手継続研修会は11回開催し事例検討や自分を知るワークショップ、電話を使ったロールプレイを行いました。今年度も教育委員会の協力を得て県内の小中学生にカード59,000枚を配布しました。子どもの声を聴く受け手を増やすため、例年は1日の受け手ボランティア養成講座を、今年度から、2日間開催しチャイルドラインの目的やその意義、受け手活動をする上での心構えなどに加え、今の子どもたちの性に関する講座や他県実施団体からの活動報告など、様々な側面からチャイルドラインを学んでもらいました。また「あそべるおっきなハンカチ」を作成し売上の一部をチャイルドライン活動への寄附としました。個人や企業、店舗等にも支援を呼びかけ、幅広い広報活動につながりました。

●みんなのあそび事業

あべこべ学校2019では、子どもが先生、大人が生徒になって伝えることの難しさや心地良さを体験しました。自然体験活動では小学生を対象にして秋や冬の森で散策を楽しみました。

●子どもフェスティバル事業

10月26日「子どもフェスティバル」を開催しました。幼児親子が楽しめる人形劇公演と子どもフリーマーケットを行いました。子どもフリーマーケット「ボクたちのお店」は今回で7回目となります。自主性を育む事業として、当日だけではなく事前の説明会を重視しています。保護者にむけてはサポートに徹してほしいことを伝えました。今回は子どもたちのお店の広さにゆとりを持たせるため2つの会場を用意しました。また、他企業とのコラボをしたことで本企画の信頼度が高まりました。当日は高校生をはじめ多くの方にボランティアとして関わっていただけました。小学生から高校生、大学生、そして大人たち、様々な世代がつながる機会となりました。

●木田児童クラブサポート事業

木田児童クラブ・第2木田児童クラブ運営委員会の委託を受け、行事企画に関するサポート、支援員の教育に関するサポート、保護者へのサポート及び苦情に関すること、この3つの柱を基本に運営業務をサポートしました。

[2] 子どもと文化に関する活動の交流、サポート及び人材育成事業

●表現ひろば事業

表現ひろばは、表現やコミュニケーションを伝える事業です。ドラマ・エデュケーションの手法を取り入れて子どもたちが表現活動を楽しく体験しました。「演劇キッズ2019」ではゼロからつくるおしばい、「ごっこランド」では子どもたちが遊びを通して自由に表現しました。また適応指導教室では他者とのかわりが苦手な子どもたちにコミュニケーションを指導しました。

●大人が学びあう講座事業

生きづらさを抱える子どもに目を向け、一歩踏み出す大人を増やしていくために毎年子どもの問題を取り上げています。今年度は、「子どもの居場所～私たちの知らない子どもの“今”～」をテーマに上映会と4回の講演会を実施しました。

[3] 文化事業の企画、調査並びに文化事業に対する協力及び連携事業

●子どもと文化企画事業

県内小学校・幼稚園・社協・その他子育て関係団体に舞台や人形劇などを紹介しました。夏休みに福井市児童クラブ連絡協議会との共催で人形劇「エルマーのぼうけん」を上演し、多くの子どもたちが生の舞台を鑑賞しました。保育園や子ども会育成会、障害児支援事業所などで、理事長講演を行いました。また委託事業の福井市児童クラブ連絡協議会事務局ではクラブ支援員に向けての研修などを行いました。

[4] 出版及び広報事業

- 広報誌「こども Channel66 号」を 2500 部発行しました。子ども N P O センターの支援者、子ども関係団体、教育機関、公共施設などに送付しました。ホームページやツイッターでも情報を発信しています。福井市総合ボランティアセンター主催や福井市社会福祉協議会主催のパネル展に出展し、活動を紹介しました。

[5] 行政・各分野 N P O との連携およびネットワークづくり事業

●行政関連委員会

福井県福祉のまちづくり推進協議会（県障害福祉課）
福井県立美術館運営協議会
福井市行政改革推進委員会
地域福祉活動推進会議委員会
社会福祉法人 福井県共同募金会評議委員会